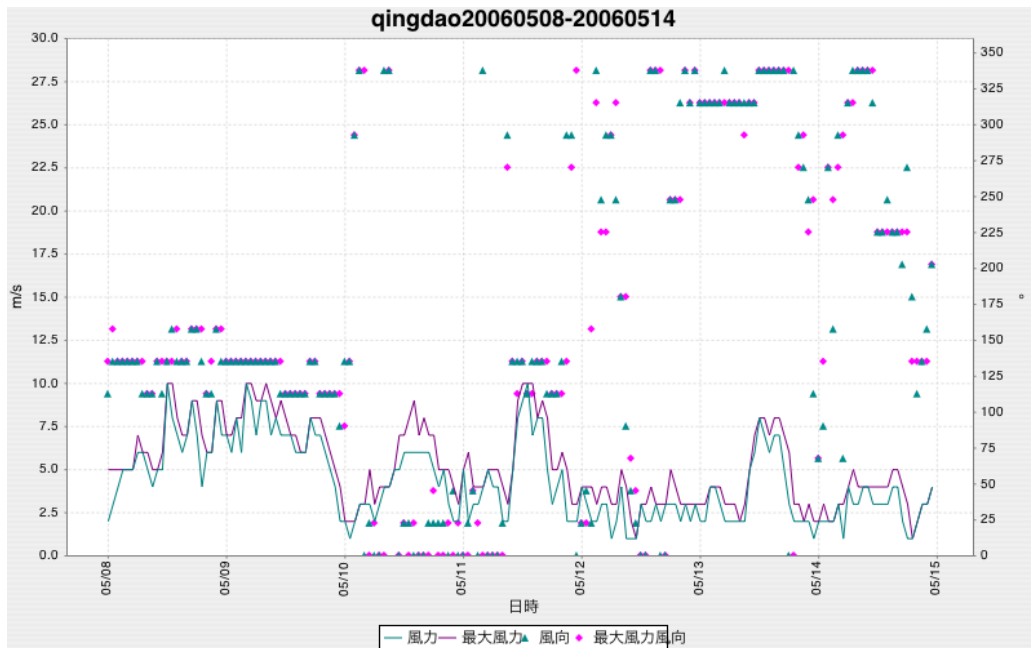


青島の風を調べるために

2005年の3月、JISSでTSCチェックの合宿を実施している最中に、JISSの情報科学の方と立ち話をする機会がありました。青島の風を調べるために気象に関するさまざまなデータを集めるのに苦戦していることを相談したのです。その場は立ち話で終わったのですが、興味を持ってもらえる内容だったのか、その後、JISSの宮地先生はじめ、スタッフの力を借りて、セーリングチーム用のデータベースを作成してもらうことができました。記録したものをアニメーションやグラフで見ることができるように、独自のツールを作り、今も毎日、青島のデータを蓄積しています。



左図は今年の5月8日から15日の青島の風向・風速データです。風向、風速で傾向を見ることができ、気になる日があれば、その日の天気図や雲画像、上空の解析図を見ます。
1日、2週間、4週間とグラフは自由に日を設定できます。

今までのセーリング競技は本番の時に気象の専門家をよんで精度の高い予報を出してもらおうという手法で戦ってきたと思います。青島では、少しアプローチを変えて、2年前のテストイベントから日本チーム全体で情報を集め、その情報を蓄積して、最後に誰が代表になっても、集めたことが役立つように準備を始めています。特にメダルレースのエリアで行われるレースについては、最大の山場になるわけですから、高層ビルに対しての海風の流れを見極めていく必要があります。組織力を生かして、情報を共有していかないといけないことですが、現場へ行く選手、スタッフはそのつもりで、協力をお願いします。

JISSにお願いしたツールは1年がかりで、今年5月にほぼ完成しました。集めた数値データをグラフにしてみることができるようになりましたし、画像で集めたものはスライドショーのように連続して見ることもできます。これまで手作業でやっていたことが自動でできるようになり、作業時間が大幅に短縮されました。また、サーバーに蓄積されていくため、常に自分のPCに大きなファイルを転送しなくてもすむのも助かります。この膨大な情報の中から、必要なことを選別して、選手に伝えていきたいと思います。選手もまた、もらった情報にたよりすぎたり、惑わされたりせずに、自分の中で上手に利用できるように勉強していくこととなります。

また、青島では、GPSを使ってエリアと風の間を記録として残せるように、松崎さん製作のGPSソフト「どこでもヨットレース」に青島の地形図を取り込んでもらっています。海で見たこと、調べたことが正確にどこの場所の話かというのを時系列でまとめていくことにより、地形の影響が見えてきますし、データと情報は正確に使えるようになります。

実際に吹いた風を把握するだけではだめで、その時にレースエリアの中で勝負どころがどこだったのか、風のくせはあるのか、などなど、結局はヨットレースと風とをつなげていかなければ意味がありませんから、この作業を現場に行くコーチからの情報に期待します。また、その情報と気象とをつなげていく役割を、岡本治朗さんをお願いしています。同じ南風でも、右海面がのびる時と、左海面がのびる時とがあります。その違いは何なのか、気象データや地形の影響を見て、考えをまとめていくわけです。

最終目標は、五輪代表になった選手用に、「青島の風：あんちょこ」を準備することです。「あんちょこ」の意味がわからない方は、舵誌に連載している「ウインドストラテジー」を読んでください。現在、テストイベントの風データを中村、斉藤のコーチボート2艇でとること、現地のブイデータをJISSプログラムで集めること、陸の海風要素に影響する場所に置く測定装置の準備、風データやGPSデータをまとめるソフト、チームで集めた情報を日ごと風ごとに整理するためのデータベースを作るなど、作業に追われているところです。



上写真： 左手前から、なるべく簡単に情報を管理できるようにと要求の厳しい宮地先生、プログラム制作の小宮根さん、サーバー管理制作の三浦さん。皆さん、JISSの情報科学担当です。右は気象アドバイザーの岡本さん。一番最初の立ち話から、どんどん内容が膨らんでいき、最後には私(斉藤)のパソコンで当日集めたデータをグラフにできるツールまで、進めていただきました。岡本さんの細かい指摘もありましたし、理想の高い宮地先生のアイデアを現実化するため、小宮根さんの作業はたいへんでした。また、三浦さんも私以上に収集するデータを見てくださっており、「青島のデータがここ数日、アップされていませんが・・・」と見張りチェックが厳しいです。今年の6月からのデータをとることが目標でしたが、何とか間に合い、情報収集作業は着々と進んでいます。

(写真と報告： 斉藤愛子)